

授業モデル2 (小学校第5学年 NEW HORIZON Elementary Unit 7 Welcome to Japan.)

小学校では、伝えたいことを書けるようにするために「話すこと・聞くこと」に十分に慣れ親しませることを目指した授業が大切です。



- 1 単元名 NEW HORIZON English Elementary 5 Unit 7 Welcome to Japan.  
 2 目標 (7/8時間)  
 (1) コミュニケーション活動に意欲的に取り組むことができる。  
 (2) 日本の四季や文化について、伝え合ったり、話したりすることができる。  
 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深めることができる。

授業ですぐ活用できるワークシートと Small Talk (詳細例) にアクセスできます。



授業充実の3ポイント	主な学習活動	分	○教師の具体的な働きかけ ◇評価
[目標の明確化] ○ 興味関心が生まれる導入  ○ 課題意識の焦点化と学習課題の設定	1 英語であいさつをする。  2 チャンツをする。  3 Small Talk をする。 〈Small Talk の例〉 A: It's cold. But I like winter. B: Oh really? Why do you like winter? A: We can eat Christmas cake.  4 本時のタスクを確認する。  自分好きな季節と行事について伝え合うことができる。	10	○ 英語であいさつをした後、天気・曜日・日付を尋ねる。  ○ チャンツをすることで、好きな季節や行事に関する単語や表現を練習する。  ・ 本時のタスクに必要な表現を確認する。 ・ 季節等のピクチャーカードを提示しながら、話の内容を把握できるようにする。 ・ 多くの児童に繰り返し質問することで、キーワードや既習表現を引き出し、概要を把握できるようにする。
	○ 解決の予想と見通し  5 Word Link (p.28) で年中行事の表現を確認する。 1回目: メトロラーニング 2回目: ゲーム形式  ラインゲーム, 爆弾ゲーム, ビンゴ, ラダーゲーム, キーワードゲーム 等  6 Enjoy Communication で、好きな季節や行事を友達にインタビューする。  〈Let's Try の例〉 A: What season do you like? B: I like winter. A: Why do you like winter? B: We have New Year's Day in winter. A: What do you do on New Year's Day? B: I usually play karuta. It's fun. A: Oh, really?	25	○ 友達とやりとりをしたり, ALT に日本の四季や文化を紹介したりするために必要な表現について慣れ親しませる。 ○ ワークシートを準備する。 ○ 会話で使う絵カードは黒板に貼っておき、いつでも確認できるようにする。  ・ 録画前にペア同士でやり取りを繰り返すことで表現に慣れ親しみ、インタビューの内容を把握できるようにする。 ・ 会話の中で意識したいところ(目線, リアクション (Me, too./I see./Oh, really?等), 表情, 音量, ジェスチャー)を確認する。  ○ タブレット端末を活用し、友達同士でやり取りを録画し、自分たちのインタビューの様子を振り返られるようにする。 ○ インタビューを通して、友達の好きな季節や行事をワークシートにメモすることができるようにする。  ・ 本時で学習した表現をもとに、好きな季節や行事について伝える表現を活用して自分の考えが伝えられるようにする。
[確かめ・見届け] ○ 学習のまとめ ○ 習熟 ○ 振り返り	7 本時のまとめをする。  A: What season do you like? B: I like (季節). A: Why do you like (季節)? B: We have (行事) in (季節). A: What do you do on (季節)? B: I usually ~.  8 友達のインタビュー映像を視聴し、友達の好きな季節や行事について内容を聞き取る。 9 振り返りをする。	10	○ 本時のまとめは、p.70 を電子黒板に投影する。  ○ 録画したインタビューの様子を視聴し、やり取りができたかどうか確かめる。  ○ 「確かめ・見届け」では、教師が児童の気付きや変容について見届け、今後の指導に生かす。  ◇ 好きな季節や行事等について、インタビューを通して積極的に伝えたり、聞いたりすることができたか。

【コアティーチャーネットワークプロジェクト外国語活動・外国語科部員】

川上 志穂美 (朝日中)	山口 のどか (奄美小)	重水 りか (田皆小)	山之口 和寿 (面縄中)	村山 篤志 (田検中)
川上 潔 (大和中)	長蘭 誠 (与論中)	前田 剛 (大和村教育委員会)	阿久根 崇 (大島教育事務所)	

令和4年度

学力定着のためのリーフレット 外国語活動・外国語科編

＝コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ＝

大島教育事務所

「未来の創り手を育成する学力向上プログラム」の一環として行われた本事業で「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。大島地区で課題のある内容や領域、技能に焦点を当て、効果的な指導例を紹介していますので、ぜひ参考にして日々の授業に生かしてください。

1 大島地区の外国語科の課題

(1) 「鹿児島学習定着度調査」の結果分析 (県の平均正答率との差)

学年	内容・領域	県の平均正答率との差			学年	内容・領域	県の平均正答率との差		
		R元年度	R2年度	R3年度			R元年度	R2年度	R3年度
1年	聞くこと	-1.3	-3.2	-3.4	2年	聞くこと	-0.6	-0.1	-1.2
	話すこと	-0.8	-3.6	-4.4		話すこと	-1.6	0.4	-0.6
	読むこと	-1.0	-4.2	-5.6		読むこと	0.7	-2.1	-3.0
	書くこと	1.4	-0.6	-3.3		書くこと	-1.2	0.1	-0.5

- ・ 中学1年は全ての内容・領域で県平均との差が大きい状態が改善されていない。
- ・ 中学1年, 2年ともに、「読むこと」に課題が見られる。  
⇒ まとまった文から内容を理解する場面の設定が必要である。



(2) 「鹿児島学習定着度調査」の問題の分析から

<中1 10>

次の英文は、マレーシア(Malaysia)の中学生のアダム(Adam)からのメッセージです。アダムの最後の問いかけにあなたは何と返信をしますか。英語で簡潔に書きなさい。

It's the rainy season in Malaysia. I like this season. It's cool. We can enjoy sports. We usually play soccer in the rain. In Japan, you have the rainy season, too. What do you do in this season?

地区通過率	33.0	地区無答率	10.5
県通過率	33.7	県無答率	8.3

- ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得が図られていない。
- ・ 英文を正確に理解させる必要がある。

<中2 8>

次は、中学生のカイト(Kaito)が書いた英文です。これを読んで考えたことを英文で書く宿題が出ました。あなたの考えを英文で書きなさい。なお、英文はIまたはWeで書き始めること。

I'm going to talk about this book. It's a book about Malala. Do you know her? Malala was born in Pakistan. Her father made schools for boys and girls there. She liked to go to school, but from 2008, the girls couldn't learn at school. She started to write about her life. Many people in the world read her blog and knew about the difficult times of the people in Pakistan.

In 2012, Malala was shot, but she lived. And she got the Nobel Prize in 2014.

Malala thinks that every boy and girl has the right to go to school, but in some places now, many boys and girls can't. They sometimes have to work for their family.

地区通過率	41.4	地区無答率	28.4
県通過率	45.3	県無答率	23.4

- ・ 問題文の概要を捉えることができていない。そのため、何について答えを書けばよいか分からない。
- ・ 自分の考えを英語で表現することができない。授業の中で、概要を把握した上で自分の考えを英語で表現する場面を設定する必要がある。

そこで、英文の概要を把握する活動に重点を置き、内容をしっかりと理解させた上で自分の考えを英語で表現できるようにする授業づくりが大切であると考えました。



2 授業づくりのポイント

【視点1】 まとまった文から概要を把握させる授業構成の工夫

- (小) 音声や視覚情報から把握させる。
- (中) 英語でのやりとりを通してキーワードを捉えさせ、概要、要点を把握させる。

【視点2】 理解したことから「自分の考え」を表現する場面の設定

- (小) 聞いて理解したことから自分の考えを表現する。
- (中) 推論発問に対して自分の考えを表現する。

授業モデル1 (中学校2年生 NEW HORIZON English Course 2 Unit 6)

1 単元の概要

(1) 単元名	NEW HORIZON English Course 2 Unit 6 Research Your Topic (全10時間)
(2) Large Task	外国からの観光客へ、故郷のおすすめスポットを紹介しよう。(Stage Activityと関連)
(3) 主な言語材料	比較表現(比較級, 最上級, 原級比較など)

2 本時の授業の概要(8/10)

- (1) Today's Goal フィードバックの概要を読み取り、プレゼンテーションに必要なことを考える。
- (2) 本時の指導のポイント
- ア 既習の言語材料を活用した対話活動を積極的に取り入れることで、概要を把握する力を高める。
  - イ 本文の内容に基づいた推論発問に取り組むことで、深い理解に基づいて自分の意見や考えを表現する力を高める。
  - ウ 複数の演習問題に取り組みさせることで、これまでの学習の成果を確かめさせ、称賛や補充指導に生かす。
- (3) 前時(第7時)の主な学習活動
- ・ 言語材料(as+形容詞, 副詞+as)の用法を理解し、その活用練習をする。
  - ・ 本文における新出語句や重要表現について、その意味や用法を理解する。

3 本時の実際

授業充実の3ポイント	主な学習活動	分	○...教師の具体的な働きかけ ◇...評価
[目標の明確化] ○ 興味・関心が生まれる導入	1 Greetings	1	○ 英語でコミュニケーションしやすい雰囲気をつくる。
	2 Review (1) Read and Think 1のピクチャーカードを使って、英問英答をする。	3	○ 英問英答を通して、既習事項を繰り返し活用し、定着を図る。
	3 Oral Interaction Read and think 2のピクチャーカードを使って、教師と対話する。	3	○ 小学校との接続を意識し、Small Talkを通して「聞きながら」概要を把握させる。
○ 課題意識の焦点化と学習課題の設定	4 Today's Goal 本時の目標を確認する。 海斗のフィードバックから、プレゼンテーションに必要なことを考えよう。	1	○ Large TaskでALTにプレゼンテーションを行う場面を具体的にイメージさせながら、本時の学習の見通しをもたせる。
	5 Guessing 数値評価の部分に注目し、どのような項目で評価しているかを簡単に捉えさせる。	2	○ 概要把握は確認程度とし、日本語の使用も可とする。

視点1

概要、要点を把握できるようにするために、英語でのやりとりを行う。  
Yes/Noで答えられる問題にするなど難易度を調整し、生徒が取りかかりやすくなるように配慮する。

[山場の工夫] ○ 自力解決による最初の考えの構築	6 Comprehension Check 1 Commentの欄を読んで概要を把握する。 (1) 段落ごとのキーワードを1つずつ見つける。 (2) ペアや全体で共有する。	12	<p>視点1</p> <p>まとまった英文を短時間で概要把握できるように、パラグラフごとにテーマがわかるキーワードを見つけさせる。特に一文目に注目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共有の際、そのキーワードを選んだ理由も述べさせるようにする。</li> <li>○ 出てきたキーワードを黒板に板書することで、本文の概要を視覚化する。</li> <li>○ 生徒から出たキーワードをもとに、さらに深い内容理解につなげるため、教師による英問英答を行う。</li> </ul>
○ 考えの共有(学び合い)	(3) キーワードから内容理解を深める。		
	表現①		
	【教師の発問例】 ① Kaito said, "I am glad to know that." Why? (キーワード) 自分の好みと同じ、アクション映画の人気、話したくなった。 ② Kaito said, "I could easily understand the result." Why? (キーワード) グラフを使って示す。		
○ 自力解決による最終的な考えの構築	7 Comprehension Check 2 推論発問に挑戦し、内容理解を深める。	9	<p>視点2</p> <p>推論発問を行うことで、本文の内容理解をより深めるとともに、新出のみならず、学んだことを踏まえた自分の考えを表現する力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の実態に応じて語数などのヒントを与えても構わない。</li> <li>◇ 本文の内容を踏まえ、自分なりの根拠をもって、自分の考えを表現することができたか。</li> </ul>
	表現②		
	【推論発問】海斗からのフィードバックに対して、次の文に続けてジョシュのコメントを考える。 Thank you for your advice. (ex.) I'll use larger letters next time.		
[確かめ・見届け] ○ 学習のまとめ ○ 習熟 ○ 振り返り	8 Summary プレゼンテーションに必要なことについて、自分の言葉でまとめる。 ◎ 文字を大きくする。 ◎ はっきりとした声で話す。 ◎ アイコンタクトをする。 ◎ グラフを使ってデータを示す。	5	○ ゴールの確認と本時で行った活動の振り返りを、自分の言葉でまとめさせる。
	9 Comprehension Check 3 鹿児島学習定着度調査で出題された類似問題に取り組ませる。	10	○ Level 1の問題から取り組ませ、本時の学習が定着しているか見届けを行う。習熟度に応じて早く終わった生徒はLevel 2に取り組むこととする。
	<生徒への声かけ例> ・ 概要を把握するときはキーワードに注目しよう。 ・ 本文の表現を参考にして作文しよう。		
	【Level 1】R3鹿児島学習定着度調査(中1)の問題から 身近な話題に関する文章を読み、自分の考えを述べる。		
	10 Greetings	2	○ 次時につながるような称賛を与える。
	10 Greetings	2	

【Level 2】R3鹿児島学習定着度調査(中2)生の問題から

より社会的な話題に関する文章を読み、自分の考えを述べる。

8 次は、中学生のカイト(Kaito)が書いた英文です。これを読んで考えたことを英文で書く宿題が出ました。あなたの考えを英文で書きなさい。なお、英文はIまたはWeで書き始めること。

I'm going to talk about this book. It's a book about Malala. Do you know her? Malala was born in Pakistan. Her father made schools for boys and girls there. She liked to go to school, but from 2008, the girls couldn't learn at school. She started to write about her life. Many people in the world read her blog and knew about the difficult times of the people in Pakistan.  
In 2012, Malala was shot, but she lived. And she got the Nobel Prize in 2014.  
Malala thinks that every boy and girl has the right to go to school, but in some places now, many boys and girls can't. They sometimes have to work for their family.

10 次の英文は、マレーシア(Malaysia)の中学生のアダム(Adam)からのメッセージです。アダムの最後の問いかけにあなたは何か返信をしますか。英語で簡潔に書きなさい。

It's the rainy season in Malaysia. I like this season. It's cool. We can enjoy sports. We usually play soccer in the rain.  
In Japan, you have the rainy season, too. What do you do in this season?